

創業動機 K-forme 株式会社

私は将来、人の為に役立つ仕事に就きたいと思っていましたが、高校卒業後何となく携帯電話の販売の仕事に就きました。仕事に慣れ始めた頃、独り身の祖母が容態を崩し入院になり、母が病院で看病の日々が続きました。ある日、母の代わりに看病に行くと祖母に介護を断られました。恐らくですが、孫の世話になるまいと意地を張ったのだと思いますが、私はその事がショックで、介護の勉強をしようと思い販売の仕事は辞めて、介護施設に勤め始めました。

そこでは身体的介護を要する方もいましたが、認知機能の低下(認知症)の方もいらっしゃいました。

また、レビー小体型認知症と ADHD(注意欠如・多動性障害)を抱えている利用者様もいました。

当時勤めていた施設では同じ空間で同じ介護をしていましたが、ADHD の障害を持っている方は、介護拒否をされる方が多く、日が暮れると不安障害が出てきてパニックになる方いらっしゃいました。その方に付きっきりで介護をする事は出来ないで、ケアプランの見直し等、すごく悩みました。

今考えてみると、その時が最初に発達障害について考えさせられた出来事かもしれません。

私はその後、結婚・出産・子育てをしていく中で、障害を抱えている子供・保護者と接することがあり、お話をさせていただくと、早期療育の必要・重要性を感じました。

そこで、以前私が働いていた介護施設での利用者さんの事を思い出しました。

当時、発達障害という診断もなく、「変わった子」「落ち着きがない」と済まされて、自分自身でも解らず、理解もしてもらえず、苦しい思いをしてきたのではないだろうか。そう考えると居ても立っても居られなくなりましたが、自身の子育て・生活もあり、日々があっという間に過ぎて行ってしまいました。子育ても一段落して、今一度、自分に何が出来るかと考え、早期療育という点に重要性を感じていたので障害児通所支援事業所に着眼点を置き、未就学児から 18 歳まで療育出来る様に、放課後等デイサービス事業も行える多機能型事業所が必要だと思い自身で作ってみようかなと、その時は思いました。

思ったのはいいのですが、何から始めればいいのかの状態でした。が、まずは家族に相談しました。

家族からいい返事がもらえ、夫が代表となり法人を立ち上げ、事業所開設の協力をしてもらえました。

そこで、開業支援事業、又は、フランチャイズ事業等がある事がわかり、沢山のパンフレットを取り寄せました、目を通して、実際に気になった所には説明会(オンライン)に参加しました。それでだけでも、それぞれの特徴が様々ありました。そうしていると、自身が住む、福山市にも沢山、障害児通所支援事業所がある事が解りました。

そこで私は、他事業所との差別化を図る為に、専門的な療育プログラムを提供していただける(株)健生に決めました。

決めましたが、実際に自身の目で確認・体験したかったので、大阪の某事業所様に見学に行かせていただきました。コロナの為、児童がいない時間のみとなってしまいましたが、実際運営されている現場を見て、職員さんのお話し聞かせていただけて大変勉強になりました。

そこで、職員さんが「どんな仕事でもそうですが、あなたが思っている以上に、この仕事もすごく大変です。命を預かるので、気を張る仕事でもありますし、体力もいります。でも子供たちの目がすごくきれいに輝いて笑っているのを見ると、嬉しいからやめられないです。」と、おっしゃっていて、すごく共感しました。

改めて、自分も療育に携わって、未来を担う子供達のお手伝いができたらと思いが固まり、児童発達支援・放課後等デイサービス事業の立ち上げ、指導員として施設に携わる運びとなりました。宜しく願いいたします。